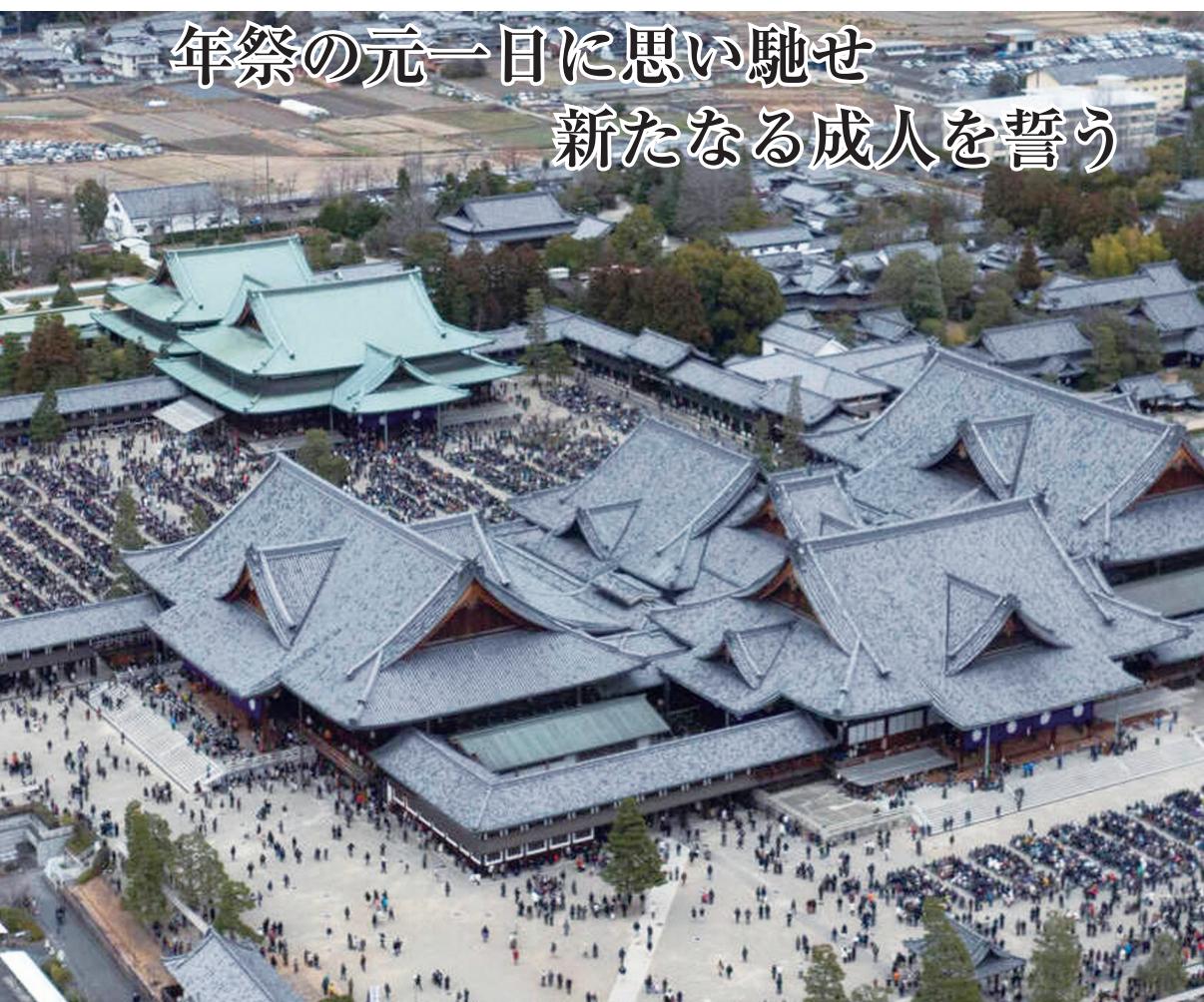


教祖 140 年祭執行

年祭の元一日に思い馳せ
新たなる成人を誓う



多くの参拝者で埋め尽くされた神苑（1月 26 日、天理時報 HP より転載）



発行所
天理教夕張大教会
〒 068-0029 北海道
岩見沢市 9 条西 6 丁目 21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 及達登録
お願いします

お知らせ

少年会夕張団総会
教祖 140 年祭学生おぢばがえり大会

3月 15 日 (日) 9 時 30 分 開扉献饌
3月 22 日

月次祭

祭典終了後、春季靈大祭

1月 26 日、教会本部では教祖 140 年祭が厳かに勤められ、約 12 万人（天理時報より）にも及ぶ多数のようぼく、信者が神苑を埋め尽くした。

夕張詰所にも、43 名が帰参（宿泊申込名簿より）。教祖が現身をお隠しになられたその日に思いを馳せ、それぞれがおぢばを押し、祈りを捧げた。

年祭前日の 1 月 25 日、日本列島は大寒波に見舞われ、道内は札幌圏を含み、至る所で大雪と風によるホワイトアウトが発生。同日夜には、およそ 7 000 人が新千歳空港で一夜を明かすほど、交通機関は大混乱となつた。

そんな中、夕張関係の帰参者も、その多くがこの日におぢばがえりを予定。詰所でその到着を待ち望む方々も大いに心配をしたが、それぞれ大変な苦労の中にも、不思議と誰一人欠けることなくおぢばへ帰ることができ、親神様の親心あふれるお導きを感じる一幕となつた。

また親里も、同日は強風とともにときおり雪が舞い、芯から凍える一日となつた。しかし、時間がたつにつれて、神殿には国内外を問わず、多くの帰参者がより集い、10 年に一度の旬にふさわしい活気に満ちていた。

そして迎えた、年祭当日。幾分は和らぐも、まだまだ寒さ厳しい気候の中、かぐらづとめ、てをどりが勤められた。

その後、あいさつに立たれた真柱様は、年祭の元一日となる、明治 20 年陰曆正月 26 日、またそこに至るまでの日々についてふれ、おつとめの大切さ、また年祭の意義について改めてお話し下された。そして、今回の年祭活動に際し、届かぬながらも精一杯につとめた我々ようぼくに、大きな親心こもる労いの言葉をかけて下され、さらにはこの日を新たなスタートとして、より一層勇んで成人への道を歩んでほしいと締めくくられた。

つとめ一条でおたすけを

春季大祭の模様



立教189年、教祖140年祭の新春は、例年よりも雪が少なく、落ち着いた年明けとなつた。しかし寒さは厳しく、強風もあいまつてことさらに寒さを感じる日が続き、大教会神殿の廊下には吹き込んだ雪が溜まるほどであった。迎えた15日、春季大祭の朝は太陽こそ見えなかつたが、雪も落ち着き静かな朝となつた。しかし道内各所では吹くところもあり、困難な道のりから多くの参拝者が大教会に集まつた。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。おつとめ後には大教会長が教祖の前へと参進し、年祭への道中をつつがなく通らせて頂いた事を御礼申し上げ、これからもたすけ一條に邁進することをお誓い申し上げた。

大祭の講話にあたり、冒頭大教会長は、一昨日よりご身上差し迫り、緊急の治療が行われていた理喜道分教長様のご身上の知らせを受けました。どうして頂きたいと、



教祖の御前で祭文を奏上

仕者、参拝者に心から謝辞を述べ、辛い状況の中で大教会まで来た御家族を丁寧に労つた。続いて3年の任期で辞令を交付。この日付けで、大教会の各部人事が刷新された(4頁参照)。

大教会長は、「昨年より長く相談を重ねまして、教祖140年祭の旬に、未来の人材育成という大きな目標を見据えて、本日、人事を新たにし、心機一転歩んで行こうと思います。」

来年は夕張大教会創立130周年の節

目を迎えるので、繰り返しになりますが、夕張大教会は新たな体制で人材育成に全力で取り組み、おつとめ奉仕員を増員し、親神様、おやさまにお喜び頂きたいと存じます」と述べた。

また講話では、「昨年末に、直轄信者さんで大きな手術を今月の14日に迎える方があり、お願いづとめを決めていた所に、理喜道の会長様のご取り頂きたいとは思えど、生半可なものでは無いと初めて実感しました。他方、段々と余計な事が考えられなくなつて、親神様だけが頼りの純粋な気持ちになつていくような、心が綺麗になつていくような感覚も覚えました。

朝になり、除雪や会議を挟んでまたおつとめ着に着替え、ようやく六

親神様に願うのですが、値を出さねば実を頂戴できない、親神様に受け取つて頂ける真実は、日々のひのきしんと、心定めであるので、ここは自分がこれまでやつた事がない程の事を定めようと思い立ち、道の先人の話に出てくる「六座のおつとめ」というものを行うと定めました。親神様に礼拝し、座りづとめ、よろづよ八首、十二下りのてをどり迄を一座として、昼三座、夜三座と勤めで願うというもので、今回の場合は、医師の予想よりも、とても良い結果にご守護下されたのではないかと有難く思いました。大難を小難に変えて連れて通つて下さるとのお言葉通りだと。

また理喜道の会長様については、御家族から集中治療室からは出られたり、少し話の受け答えができる状態ですと伺い、私は自分の父が意識が戻らなかつた事を思い出し、目を開けて下さる事は本当に素晴らしいござれました。おやさまが、眞之亮様に対するお言葉を下げられ、対して眞之亮様との真剣な問答を紹介します。

人々の心の成人を待つ親神様のお急ぎ込みによって、ご身上が危うくなられたおやさまが、眞之亮様に対して、もう待つことはならない、世の法律を恐れず、世界を救けるかぐら・てをどりを勤めよと幾度となくお言葉を下され、対して眞之亮様は、大切なおやさまをこれ以上高山(官憲)に連れ去られ、ひどい仕打で、諦めず願い続けます」と話した。更に大教会の前会長夫人、美重子奥様が現在関東で懸命にリハビリに努めている事に触れ、どんどんと足腰が強くなられて、元気になつていらっしゃる事を喜び、「実は関東に居ながら、今月、母と実兄、実弟の方々が集結し、母の両親、つまり北遠分会四代会長・平塚鷹男先生と、トヨオ様の年祭を、美重子奥様を祭主に勤めて下さったんです。元々平塚

の墓にも参り、温かな年祭となりました。本当は去年が鷹男先生四十年祭の年でしたが、文雄前会長様の一年祭を優先し、延ばしていたのでした。美重子奥様には3月の祭典講話を立つて頂きますので、皆様どうぞ楽しみにして下さいね」とも話した。

仕者、参拝者に心から謝辞を述べ、辛い状況の中で大教会まで来た御家族を丁寧に労つた。続いて3年の任期で辞令を交付。この日付けで、大教会の各部人事が刷新された(4頁参照)。

大教会長は、「昨年より長く相談を重ねまして、教祖140年祭の旬に、未来の人材育成という大きな目標を見据えて、本日、人事を新たにし、心機一転歩んで行こうと思います。」

来年は夕張大教会創立130周年の節

目を迎えるので、繰り返しになりますが、夕張大教会は新たな体制で人材育成に全力で取り組み、おつとめ奉仕員を増員し、親神様、おやさまにお喜び頂きたいと存じます」と述べた。

昔の信仰者は、三日三夜に渡つて14日前中の手術と分かつっていたの

で、13日夜から深夜をまたいで六座

と思い付きました。

昔の信仰者は、三日三夜に渡つて

14日前中の手術と分かつっていたの

で、13日夜から深夜をまたいで六座

と思い付きました。

昔の信仰者は、三日三夜に渡つて

14日前中の手術と分かつっていたの

で、13日夜から深夜をまたいで六座

と思い付きました。

昔の信仰者は、三日三夜に渡つて

14日前中の手術と分かつていたの

で、13日夜から深夜をまたいで六座

と思い付きました。

昔の



ふりかえる— 教祖 140 年祭

年祭回顧

私は教祖 70 年祭の年、昭和 31 年生まれで、この 140 年祭の年は、古希の 70 歳となる。

80 年祭は夕張でも団参があり、次いで大阪万博があり、各教会でも多くの団体を組んで、別席者もたくさん出来た。団体列車の中で、高齢の方が息が止まり、おたすけで息を吹き返すという不思議を目の当たりした。その人達の感激の思いはいつも語り草となり、教会としてのこふき話になった。

90 年祭前に夕張は大教会に陞級しており、そのお礼団参があり、桜井詰所などに分散して宿泊した。その折に、私はエレベーターがない桜井詰所で、あるおばあちゃんを背負って 3 階まで上がった。大変喜んでくださり、その方の布教所に行くと、必ず背負っ

てくれたとの話が出て、10 年以上経っても、語り継がれて喜ばせて下さった。第 1 次から 8 次まで、1300 名参拝に来られた。

100 年祭は今の詰所が出来ていて、本部では「元の理」、「ひながた」などのパビリオンがあり、夕張の帰参者も延べ 4600 名に上った。私も誘導のひのきしんをさせてもらった。

年祭毎に夕張は団体列車の第 1 号だったりして、取材されてきたが、この 140 年祭でも、たくさんの方の帰参をお誘いしています。

年祭はたすけの匂い。たすけづとめのおぢばに、1 人でもお連れして、喜べる人生に導きたいと思う。また、新たなおふき話が出来るでしょう。

(藤崎実)



御招宴出発前（1月 28 日、詰所にて）

教会长御招宴

1 月 28 日 12 時から、天理大学杣之内第一体育館にて、教会长御招宴が開かれ、夕張から 13 名が参加した。

この日を初めとして、5 日間にわたって催される今回の御招宴は、教内全教会長を対象に招待され、開宴時には真柱様より、改めて労いのお言葉を頂戴することができる非常に貴重な場である。

続く乾杯の後には、20 品以上のおしながきが並ぶ、真心こもったおいしいお弁当を堪能。この日の会場には、北海道教区の教友が多かったこともあってか、参加者は終始リラックスムードの中、三年千日の労をねぎらい合うなど、時間の許す限り憩いのひと時を過ごした。

(岩佐善昭)



本部詰員登用

| | | | | | | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|-------|-----------------|-------|-----------------|-------|---|
| 〔祭儀部〕 | 西尾正行 （会計副部長・総務部） | 〔布教部〕 | 佐藤大輔 （会計監査） | 〔会計部〕 | 梶川卓一 （育成会顧問） | 〔総務部〕 | 藤田好道 （育成会顧問） | 〔人事部〕 | 夕張大教会では、1月 15 日付で人事を刷新。任期を 3 年と定め、新たなスタートを切ることとなつた。 |
| 〔祭儀部〕 | 齊藤真善 （会計副部長・総務部） | 〔布教部〕 | 志水隆 （会計監査） | 〔会計部〕 | 竹田勲 （会計監査） | 〔総務部〕 | 藤崎利男 （会計監査） | 〔人事部〕 | 夕張大教会では、1月 15 日付で人事を刷新。任期を 3 年と定め、新たなスタートを切ることとなつた。 |
| 〔祭儀部〕 | 千葉祐生 （会計副部長・総務部） | 〔布教部〕 | 宮本和昭 （会計監査） | 〔会計部〕 | 藤田好道 （育成会顧問） | 〔総務部〕 | 梶川卓一 （育成会顧問） | 〔人事部〕 | 夕張大教会では、1月 15 日付で人事を刷新。任期を 3 年と定め、新たなスタートを切ることとなつた。 |
| 〔祭儀部〕 | 齊藤真善 （会計副部長・総務部） | 〔布教部〕 | 志水隆 （会計監査） | 〔会計部〕 | 竹田勲 （会計監査） | 〔総務部〕 | 藤崎利男 （会計監査） | 〔人事部〕 | 夕張大教会では、1月 15 日付で人事を刷新。任期を 3 年と定め、新たなスタートを切ることとなつた。 |
| 〔祭儀部〕 | 千葉祐生 （会計副部長・総務部） | 〔布教部〕 | 志水隆 （会計監査） | 〔会計部〕 | 藤田好道 （育成会顧問） | 〔総務部〕 | 梶川卓一 （育成会顧問） | 〔人事部〕 | 夕張大教会では、1月 15 日付で人事を刷新。任期を 3 年と定め、新たなスタートを切ることとなつた。 |

次なる塚に向けて 夕張大教会人事刷新

| | | | | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------------|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 〔教務部〕 | 藤崎 実 （会計監査） | 〔史料部〕 | 高橋 太志 （会計監査） | 〔教務部〕 | 高橋 太志 （会計監査） | 〔史料部〕 | 高橋 文吾 （会計監査） |
| 〔教務部〕 | 齊藤智明 （会計監査） | 〔史料部〕 | 富山睦信 （会計監査） | 〔教務部〕 | 中右浩太郎 （会計監査） | 〔史料部〕 | 竹田 元 （会計監査） |
| 〔教務部〕 | 藤田 豊 （会計監査） | 〔史料部〕 | 梶川創一郎 （会計監査） | 〔教務部〕 | 渡部修太 （会計監査） | 〔史料部〕 | 大橋宗春 （会計監査） |
| 〔教務部〕 | 千葉真理 （会計監査） | 〔史料部〕 | 藤田 豊 （会計監査） | 〔教務部〕 | 岩佐善昭 （会計監査） | 〔史料部〕 | 千葉和樹 （会計監査） |
| 〔教務部〕 | 副部長（会計監査） | 〔史料部〕 | 副部長（会計監査） | 〔教務部〕 | 〔教務部〕 | 〔史料部〕 | 〔教務部〕 |
| 〔教務部〕 | 〔教務部〕 | 〔史料部〕 | 〔史料部〕 | 〔教務部〕 | 〔教務部〕 | 〔史料部〕 | 〔教務部〕 |
| 〔教務部〕 | 〔教務部〕 | 〔史料部〕 | 〔史料部〕 | 〔教務部〕 | 〔教務部〕 | 〔史料部〕 | 〔教務部〕 |
| 〔教務部〕 | 〔教務部〕 | 〔史料部〕 | 〔史料部〕 | 〔教務部〕 | 〔教務部〕 | 〔史料部〕 | 〔教務部〕 |



巡回ひのきしん（1月 25 日）